

2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 4 月 25 日

所属	政策情報学部	職名	准教授	氏 名	権永詞
研究課題	「聖-俗-遊」モデルの再検討と「アウトドアの社会学」の可能性				
研究キーワード	アウトドア 遊び 環境 自然保護	当年度計画に対する達成度		2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた	
関連するSDGs項目	14. 海の豊かさを守ろう	15. 陸の豊かさを守ろう	該当なし		該当なし

1. 研究成果の概要

当該年度の研究計画として、①ロジェ・カイヨワの「聖-俗-遊」モデルの現代的な意義についての理論的検討、②アウトドア・アクティビティについての定性調査を通じたフィールドの保全・維持・管理についての調査を挙げた。このうち、①については理論的検討の成果を 2023 年度の日本社会学理論学会大会において報告し、同年度の学会誌『現代社会学理論研究』に査読論文として投稿し採択された。論文の内容としては、カイヨワの「聖-俗-遊」モデルの日本の社会学理論における受容として、作田啓一と井上俊の議論について言及した上で、現代社会を「聖=俗複合体から俗=遊複合体への移行」と捉え、「遊び」の社会的機能としての「聖-俗」に対する批判的・自律的な機能が、クリエイティブ・エコノミーや個人化社会のなかで、社会への順接的な適応の機能へと変質あることを指摘した。このことは、アウトドア・アクティビティのような活動が、単なる快樂のためのレジャー以上の意味、例えば、自己実現や自己鍛錬といった個人にとってより切実で重要な行為の意味を獲得すると同時に、そうした「遊び」に対する社会的な認知が、クリエイティブ・エコノミーに代表される後期近代の資本主義経済における新たな社会的ヒエラルキーの創出につながることを意味する。もはや、「遊び」は余暇という周縁的な活動とはいえず、これらを中心に構成される社会関係を批判的に分析・考察していく対象になったと言えるだろう。

②については、2022 年度に引き続き、北海道弟子屈町におけるフィールド調査を実施し、その成果の一部を『千葉商大論叢』に論考として発表した。弟子屈町は持続可能な観光の実現をまちづくりの中心に据えることで、阿寒摩周国立公園を管轄・所有する環境省及び林野庁といった関係省庁と連携しながら、自然資源の活用 to 積極的な政策を進めてきた。こうした活動は、人口流出・少子高齢化が加速していく地方自治体のなかで、自然資源の保全と魅力的な観光資源の創出を両立しているベスト・プラクティスとして内外の評価を受けてきた。一方で、持続可能な観光の要点は、自然に限らず観光資源を保全するための人流の抑制にあり、そうした規制政策と観光経済の持続的成長を両立するためには高単価な観光サービスの創出が必要になる。これらの政策においては、それを意図する／しないに関わらず、自然観光資源を楽しむ空間を創出するための、ある種のセグリゲーションが生じる。例えば、弟子屈においては屈斜路湖における動力船の利用規制や、釧路川源流域でのカヌー利用の規制を通じて、国立公園に望ましい振る舞い方や楽しみ方が提示されていくことが観察された。

2. 著書・論文・学会発表等

(できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載)

【論文 (査読あり)】

・「自己実現と遊び ——「俗=遊複合体」の京成とその問題——」権永詞、単著、2024 年 2 月採択、『現代社会学理論』第 18 号、日本社会学理論学会。

【著書・論文（査読なし）】

・「エコツーリズムを通じた地域の独自性の創出 ——阿寒摩周国立公園におけるアウトドア・アクティビティの観光資源化の事例から——」権永詞、単著、2024 年 3 月、『千葉商大論叢』第 61 巻第 3 号、pp.111-132.

【学会発表等】

・「後期近代における個人の自律性と遊戯性 ——「聖-俗-遊」図式の再検討——」『日本社会学理論学会第 18 回大会一般報告』2023 年 9 月 2 日、於・摂南大学

3. 主な経費

関連書籍の購入代の他、文具・ソフト代などの消耗品費・雑費のほか、調査のための旅費宿泊費として使用した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

・なし

(本文は 2 ページ以内 にまとめること)